Google/tsukuba.ac.jp/TX

中村　剛
東京都公立中学校教員

はじめに

まわりの人に、「筑波大学」のイメージを聞いてみると、ノーベル賞、スポーツ選手の名前が返ってくる。これは、ある意味当然のことで、この2つに限らず、教員がテレビに出ることによってでも、それで、大学が有名になることは、悪いことではない。しかし、そこからは、大学に求められているものはわからない。かといって、筑波大学について、普段から注目しているわけでもないので、3つの方法を使って、筑波大学にアクセスしてみた。「Google」と「筑波大学のWebサイト」と「つくばエクスプレス」である。

Google

Googleを使って、「筑波大学」とWebサイト検索してみると、191万件もヒットした。ニュース検索をしてみると、25件だった。他の主な大学について、おおよそ北からみていくと、

北海道大学 432万件／23件、
東北大学 333万件／44件、
東京大学 1580万件／132件、
名古屋大学 230万件／29件、
京都大学 555万件／74件、
大阪大学 192万件／26件、
広島大学 171万件／19件、
九州大学 366万件／31件、
早稲田大学 219万件／81件、
慶應大学 280万件／24件、
日本大学 2290万件／20件、
東海大学 209万件／29件、
関西外国語大学 71万件／0件

だった。選んだ大学に特に意図はない。ただ、北から南までまんべんなくという感じに。私学については、まず、早稲田大学、慶應大学が頭に浮かび、後は、大きいところで日本大学、最近TVCMが目立った東海大学、甲子園の看板が目立った関西外国語大

学が気になった。

Webサイト数の数字をどう受け止めれば良いのだろうか。日本大学、東京大学、京都大学が多いのは何となく納得、筑波大学の191万ヒットは、特に宣伝をしなくても、それなりに注目されているということかもしれない。しかし、特に少ないわけではないが、もう少し多いと思った。

筑波大学でヒットしたWebサイトの上位20番目までをあげてみると、1番目から、

1. 大学トップページ、
2. 附属図書館トップページ、
3. 附属図書館リンクページ、
4. 附属病院、
5. 大学研究センター、
6. 数学系、
7. 附属坂戸高校、
8. 附属盲学校、
9. 医学部、
10. 附属高校、
11. 芸術専門学群、
12. 声合唱団、
13. 計算科学研究センター、
14. 吹奏楽団、
15. 男子アイスホッケー部、
16. 大学へのアクセスページ、
17. 柔道同好会、
18. 学園祭（雙峰祭）、
19. 図書館情報大学、
20. 漕艇部

となる。

病院・医学と運動部が上位に来ることは、他の大学でも同様であるが、2番目と3番目に図書館が出てくる。他大学では、上位10番目までに図書館が出てこないところもあるので、これも1つの特徴かもしれない。また、附属諸学校が他大学に比べ上位にあるのは、何となく理解できるが、大学研究センター、数学系が6番目に登場したのは驚いた。一方で、ほとんどの大学で上位に登場する「出版会」と「新聞社／通信社」が上位には登場しなかった。

大学とは直接関わりのないサイトが登場するのは、23番目の「登大遊」さんの個人のものだった。

中には「筑波大学・筑波学術研究ちゃんねる（つくちゃん）」というサイトもあった。「2ちゃんねる」の筑波版というところだろうか。筑波大学の名前が付いているところが少し気になる。

また、ニュースサイト25件について、調べてみると、一番多いのは、教官の研究についてのもので12件、次に、事件・事故などへの教官のコメントが3件、先程の登大遊さんのSoftEtherについてが3件、スポーツが2件などとなっていた。これは、イメージ以上の良い結果で、悪いニュースで有名になってしまう大学もあるので、この健全な

内容に正直ホッとした。

大学のWebサイト

次に、筑波大学のトップページをみてみた。まず、よけいなアニメーションがないことに感心。あれはほんとにじゃまなだけだと思う。「中文版」というのがある。普通は「English」ぐらいだと思うのでこれにも感心。アジアを大切にしている感じがする。でも、ハングルや他のアジアの言葉があったらより良いと思った。「携帯サイト」というのもあり、バスの時刻表などがある。でも、つくばエクスプレスの時刻表がない。今後に期待。「訪問者別 Index」というのがはっきり書いてあってわかりやすい。

ところで、Web サイトでは、アクセシビリティというのが大切なのだそうである。もちろん素人の感想であるが、全体としてはアクセシビリティが良いとは思えない。というのは、画像やボタンのリンク設定に統一性がない。また、「訪問者別Index」はもっと上の方にあった方が良いと思うし、「キャンパス案内」は充実しすぎてどれを観たらいいのかわからない。これは、外の人には親切でない。

つくばエクスプレス

お茶の水でオレンジ色の電車から黄色の電車に乗り換えて秋葉原に到着する。秋葉原に到着した。しかし、つくばエクスプレス（以下 TX）に乗るには、一度、外に出なければならない。

外に出たついでに、自由通路を通って電気街に向かう。筑波大学の東京キャンパス社会人大学院が入っている駅前のビルに入ってみる。案内板では確認できたが、あまり目立たない。ついでにいうと、TX 秋葉原駅の改札口の看板も、筑波大学のものだとは気づかなかったし、つくば駅の校内では筑波大学を感じるものはほとんどなかった。

気を取り直して、TX のホームに向かうが、地下深くにあるため、エスカレーターを何度も乗り継ぐ。帰りに測ってみたら、TX のホームから JR 山手線のホームまで6分ほどかかる。そういえば、東京で暮らしていると、地下ホームの深さには驚く。特に大江戸線、これでもかというほどである。何とかならないものだろうか。

しかし、よく考えてみると、IT の時代なのだから、人は移動しなくても情報は得られるはずである。たとえば、筑波大学の校内も先程のWebサイトでバーチャルに体験できる。しかし、それでも人は、移動したがる。何でだろう。そういえば、つくばだって、何で TX で、東京と結んだんだろう。やはり、人と人とが会うことは重要なのかもしれない。

情報を運ぶ手段は格段に進歩しているのに、人を運ぶ手段の1つであるエスカレーターはあまり進歩していない。エスカレーターだけでなく、エレベーターも地震発生時の閉じ込めが問題になっている。

「IT社会の中のコミュニケーションと人の快適かつ安全な移動」。このテーマに、東京から移動し今TXで再び東京につながった「つくば」にある大学に、じっくり取り組んで欲しい、などとTXに乗りながら思った。

（なかむら　つよし）